

年 表

2000~2009 年度

2000 年度

- 2000. 4 超高感度ハイビジョンハンディカメラを開発
- 2000. 4 地上デジタル放送用回り込みキャンセラーを開発
- 2000. 4 BS デジタルフェア(渋谷の放送センター)で BS デジタル放送の全体像を紹介すると同時に技研の最新の研究成果を展示
- 2000. 5 技研での干渉計算結果に基づき、WRC-2000 で第三地域(アジア・オセアニア)に衛星放送用 4 チャンネルを追加割り当て
- 2000. 6 日英翻訳支援システムを開発 国際放送などの英語ニュース原稿作成現場で運用開始
- 2000. 6 ABU(アジア太平洋放送連合)加盟国から研究者を招聘、研究員 3 名来日(韓国, トルコ, 中国)
- 2000. 7 技研開所 70 周年シンポジウムを開催、テーマは「放送イノベーション～デジタル時代に飛躍する放送～」
- 2000. 7 九州・沖縄サミット開催にあわせ、BS デジタル放送や地上デジタル放送の実験を公開
- 2000 年 3 月 15 日～8 月 31 日まで、BS デジタル放送の受信機調整を目的とした電波発射実験に協力、9 月 1 日からは試験放送が始まりシドニーオリンピックの模様を全国中継
- 2000.10 ITU(国際電気通信連合)で地上デジタルテレビジョン放送方式(ISDB-T)が勧告化
- 2000.10 冷陰極 HARP 撮像板を試作、128×96 画素の撮像板による撮像に成功
- 2000.12 BS デジタル放送開始
- 2000.12 新研究棟上棟式
- 2001. 1 走査線数 2000 本級超高精細カラーカメラを試作
- 2001. 2 ハイビジョン移動中継用 OFDM-FPU 実験機を開発
- 2001. 3 ケーブルテレビについて、複数トランスポートストリーム伝送方式が ITU で勧告化

2001 年度

- 2001. 4 自然な音で聴ける映像・音声可変速再生ソフトウェアを開発
- 2001. 5 BS デジタルフェア(渋谷の放送センター)、BS デジタル放送の魅力体験できるイベントを中心に技研の最新の研究成果を展示
- 2001. 6 「技研中長期ビジョン～夢の実現に向けて～」を公表
- 2001. 7 超小型高性能 IC マイクロホンの開発～放送から民生機器までの広い応用が期待～
- 2001. 7 ABU 加盟機関から研究者を招聘。研究員 2 名来日(バングラディシュ、モンゴル)
- 2001.11 新研究棟竣工式
- 2001.11 パーチャルセットでの新技法を開発、～パーチャルセットの中で自然な演技が可能に～
- 2001.12 2 眼式立体 HDTV 伝送システムを開発、～岡山-東京間のネットワーク伝送実験を初めて行い、成功～
- 2001.12 リスピーク方式により、初めて「紅白歌合戦」の字幕放送を実施
- 2002. 1 リン光性高分子材料を用いた有機 EL 素子で高効率の RGB 発光を実現
- 2002. 2 地上デジタル放送用ダイバーシティー受信型中継装置の開発

- 2002. 2 新研究棟への移転
- 2002. 3 びわ湖毎日マラソンで、800 MHz 帯 OFDM FPU を用い、初めてハイビジョン移動中継を実施
- 2002. 3 新研究棟落成披露記念式典、走査線数 4000 本級超高精細映像システムなど夢の実現に向けた研究の第一歩を落成披露展示で紹介

2002 年度

- 2002. 4 新研究棟オープン
- 2002. 5 BS デジタルふれあい広場(渋谷の放送センター)、デジタル放送の魅力体験できるイベントで、最新の研究成果を展示
- 2002. 5 動画用電子透かし装置を初めて開発、～実時間で情報の埋め込みと検出を実現～
- 2002. 5 新研究棟で初めての技研公開を開催(第 56 回)
- 2002. 7 ABU 加盟機関から研究者 1 名(インド)を招聘
- 2002.10 ブラジル TV Globo から研究者 3 名を招聘
- 2002.11 ABU 東京総会、来日した加盟国技術者らに最新の研究成果を展示
- 2002.11 教育フェア 2002「NHK 秋のふれあい広場」(渋谷の放送センター)、放送が教育に果たす役割を紹介するイベントで、技研で開発した技術を紹介
- 2002.11 新しい地上デジタル放送用中継装置の開発、～高品質で安価な放送ネットワークの実現へ～
- 2002.12 技研開発の話速変換技術を採用したラジオが実用化
- 2003. 1 「新世代バーチャルスタジオ」を番組で使用(1 月「美しい日本 百の風景 スペシャル」、2 月「あなたとともに 50 年 今日テレビの誕生日」)
- 2003. 2 研究棟エントランスの見学コースをリニューアル、技術展示内容を充実するとともに、NHK アーカイブス端末も設置

2003 年度

- 2003. 4 丸められる超薄型テレビの実現に向け高性能な液晶駆動用有機トランジスターを開発
- 2003. 4 ナイトゲーム中継で使用可能な超高速高感度カラーカメラを開発
- 2003. 5 デジタル放送ふれあい広場 2003(渋谷の放送センター)で最新の研究成果を展示
- 2003. 5 地上デジタル放送の放送波中継用干渉除去装置を開発
- 2003. 5 地上デジタル放送移動受信用ダイバーシティー受信技術を開発
- 2003. 5 JPEG 2000 規格準拠の PC 用ハイビジョンリアルタイム圧縮・伸張基板を開発
- 2003. 5 地上デジタル放送のデータ放送と携帯電話を組み合わせた放送通信連携サービス用携帯端末を開発
- 2003. 9 60 GHz 帯電波を用いた BS デジタル放送の再送信システムを開発
- 2003. 9 ABU 加盟国から研究者 1 名(イラン・イスラム共和国放送)を招聘
- 2003.10 TELECOM 2003(ジュネーブ)で「人にやさしい放送サービス」を技術展示

- 2003.11 教育フェア 2003「NHK 秋のふれあい広場」(渋谷の放送センター)で現実とテレビの中の世界を共有する新しい「VR型テレビ」などの研究成果を展示
- 2003.11 デジタル放送のトランスポートストリーム品質監視装置を開発
- 2003.11 走査線数 4000 本級超高精細映像システム、屋久島でロケを実施
- 2003.12 地上デジタル放送が東京・名古屋・大阪で開始
- 2003.12 世界情報サミット(ジュネーブ)で「人にやさしい放送サービス」などを技術展示
- 2004. 2 TVML プレーヤーの新版をリリース

2004 年度

- 2004. 4 NHK オンラインで話速変換機能を組み込んだラジオニュースの提供サービスが開始
- 2004. 5 放送通信連携サービスの受信が可能な地上デジタル放送の携帯端末 2 機種を開発
- 2004. 5 出演者を自動認識・追尾できる移動ロボットカメラを開発
- 2004. 5 走査線数 4000 本システムの愛称を「スーパーハイビジョン」に決定
- 2004. 5 有機光電変換膜でテレビ撮像実験を実施し、ハイビジョンにも対応可能な性能を確認
- 2004. 7 特別展「プロジェクト X 21」開催、近未来の放送に向けた技研の研究開発を紹介
- 2004. 8 有機 EL キャスターライトをアテネオリンピック大会の現地 NHK スタジオで使用
- 2004. 9 周波数 100 kHz まで収音できる超広帯域マイクロホンを開発
- 2004.10 ABU 加盟国から滞在研究者 1 名(パキスタンテレビ)を招聘
- 2004.10 放送とインターネットの連携サービス実験を実施
- 2004.10 TVML を用いたキャラクターアニメーションシステムを地上デジタル放送の開局にあわせ水戸局に導入
- 2004.11 教育フェア 2004「NHK 秋のふれあい広場」(渋谷の放送センター)で教育関連の研究成果を展示
- 2004.12 光通信網を活用した地上デジタル放送波の再送信実験に成功
- 2005. 3 「愛・地球博」(愛知万博)で「スーパーハイビジョン」を上映、「アクシビジョン」、「知的ロボットカメラ」を使用して放送を実施(2005 年 9 月まで)

2005 年度

- 2005. 5 任意視点映像生成システムにより、伝統芸能の 3 次元映像を生成
- 2005. 5 地上デジタル放送のキャリアごとの誤り率測定器を開発
- 2005. 5 TVML プレーヤーミニをフリーウェアで公開
- 2005. 5 小型で超高感度な HEED 冷陰極 HARP 撮像板を開発
- 2005. 5 「NHK 技研ビジョン “NEXT”」を技研公開において公表
- 2005. 6 新しい発想に基づく立体像提示装置「モルフォビジョン」を開発
- 2005. 6 技研 75 周年展示を開催し、視聴者から借用した貴重な品や最新の放送技術などを展示(12 月まで)
- 2005. 8 地上デジタル放送携帯端末向けサービス用 BML ブラウザーを開発
- 2005. 9 プラズマテレビ用の新しい電極保護膜材料を開発

- 2005.10 CEATEC JAPAN 2005 で、技研の最新技術を展示
- 2005.11 光ファイバーによる世界初のスーパーハイビジョン生中継実験に成功
- 2005.11 技研 75 周年イベントとして、75 周年記念講演会と地域イベントを開催
- 2005.11 移動ミニ技研公開である「技研ひろば」を開始
- 2006. 1 高効率な地上デジタルテレビ放送用電力増幅器を開発
- 2006. 2 IP マルチキャストによるハイビジョン映像の高信頼配信に向けて、送信サーバー速度制御技術と回線障害時のリカバリー技術の公開実験を実施
- 2006. 2 トリノ冬季オリンピックで、60 GHz 帯を用いたハイビジョン素材伝送システムをスピードスケートの無線レールカメラに使用
- 2006. 3 スーパーハイビジョン符号化装置を開発

2006 年度

- 2006. 4 NAB 2006(ラスベガス)で、海外で初めてスーパーハイビジョンシアターを展示
- 2006. 5 出演者に見えてもカメラには映らない「インビジブルパネル」を開発
- 2006. 5 メタデータ制作技術の研究開発の共通基盤を提案
- 2006. 6 組織改正を行い、3 つの研究部門(システム、人間・情報、材料・デバイス)に集約
- 2006. 7 ブラジル政府が、地上デジタル放送の方式として ISDB-T を基本とした方式の採用を発表
- 2006. 7 スーパーハイビジョンの映像フォーマットが、ITU-R で、大画面デジタル映像(LSDI)のフォーマットとして勧告化
- 2006. 9 IBC 2006(アムステルダム)で、スーパーハイビジョンを展示
- 2006. 9 移動ミニ技研公開である「技研ひろば」を、札幌、長野、松山など全国 9 か所で開催(2007 年 3 月まで)
- 2006. 9 小型で超高感度な標準テレビ用冷陰極 HARP 撮像板を開発
- 2006.10 スーパーハイビジョン用薄型ディスプレイの実現に向けて、画素ピッチ 0.3 mm の超高精細プラズマディスプレイ(PDP)を開発
- 2006.10 CEATEC JAPAN 2006 で、スーパーハイビジョンシアターを展示
- 2006.11 ABU 技術委員会議長に正源研究主幹が就任
- 2006.11 ワンセグ連結ギャップファイラー装置の開発
- 2006.12 技研エントランスホールの見学コーナーをリニューアルし、「ラボちゃんラボ」をオープン
- 2006.12 一般の IP 光回線を用いて、スーパーハイビジョン信号の長距離伝送(渋谷の放送センターから大阪放送局まで)に成功
- 2006.12 スーパーハイビジョンによる紅白歌合戦のパブリックビューイングを、大阪放送局において実施
- 2007. 2 欧州の放送技術研究機関トップが技研を訪問し、今後の連携に関する協定書に調印
- 2007. 2 ふれあいイベント「アンカー対談〜わたしとラジオ深夜便〜」を開催

2007 年度

- 2007. 4 NAB 2007(ラスベガス)で、前年に引き続きスーパーハイビジョンを展示

- 2007. 5 ひろしまフラワーフェスティバルにあわせ、広島放送局でスーパーハイビジョンを展示
- 2007. 5 多視点映像システム「ぐるっとビジョン」を開発
- 2007. 5 MPEG-4 AVC/H.264 スーパーハイビジョン符号化実験装置を開発
- 2007. 5 フレキシブルディスプレイ用スピーカーを開発
- 2007. 5 スーパーハイビジョンを用いた立体テレビを開発
- 2007. 6 首相官邸でハイビジョン HARP カメラを展示
- 2007. 9 IBC 2007(アムステルダム)で、超高速 CCD カメラを展示
- 2007. 9 3年目となる「技研ひろば」を、釧路、青森、奈良、長崎など全国9か所で開催(2008年2月まで)
- 2007. 9 増田総務大臣が技研の最新技術を視察
- 2007.10 CEATEC JAPAN 2007 で、TV 4U を展示
- 2007.10 ITU-R SG 6 副議長に西田主任研究員が就任
- 2007.10 スーパーハイビジョンの映像フォーマットが、SMPTEで暫定規格として承認
- 2007.12 ブラジルで、技研で開発された日本方式の地上デジタル放送がスタート
- 2007.12 テレビ画面や映画スクリーンに表示された映像を再撮しても、再撮した場所や時刻などを特定できる新しい電子透かし技術を開発
- 2008. 1 技研ふれあいイベントを開催
- 2008. 2 高度 BS デジタル放送の ARIB 実証実験を実施(2007年11月~2008年2月)
- 2008. 2 小型超指向性のリアキャンセルマイクロホンを開発

2008 年度

- 2008. 4 NAB 2008(ラスベガス)において、スーパーハイビジョン、高速度高感度カメラ、ハイビジョン HARP カメラなどを展示
- 2008. 5 技研公開で「NHK 技研ビジョン “YOU”」を公表
- 2008. 5 技研を紹介する携帯サイトオープン
- 2008. 6 BroadcastAsia 2008(シンガポール)において、アジア初となるスーパーハイビジョン展示を実施、あわせて地上デジタル放送関連技術を展示
- 2008. 6 ITU トゥーレ事務総局長が技研の最新技術を視察
- 2008. 9 IBC 2008(アムステルダム)において、欧州の機関と協力して、スーパーハイビジョン国際伝送実験を実施し、IBC 特別賞を受賞
- 2008. 9 地上デジタル放送の中継局を低コストで実現できる低遅延マルチパス等化装置を開発
- 2008. 9 ITU 主催の TELECOM Asia 2008(バンコク)において、地上デジタル放送関連技術を展示
- 2008. 9 CEATEC JAPAN 2008 において、超高速高感度カメラ、緊急地震速報を展示
- 2008.10 全国9か所の放送局などで視聴者ふれあい活動「技研ひろば」を実施(2009年2月まで)
- 2008.10 熊本局開局 80 年記念フェアにおいて、スーパーハイビジョンの上映をはじめ、技研の研究結果を展示
- 2008.11 非圧縮ハイビジョン信号6チャンネルを多重化した 10 Gbps 級の信号を、120 GHz 帯の無線周波数で伝送する実験を日本電信電話(株)と共同で実施
- 2008.12 第 59 回紅白歌合戦において、モバイルカメラ、ハイビジョン HARP カメラを使用

- 2008.12 紅白会場に隣接するふれあいホールで、スーパーハイビジョンのパブリックビューイングを開催
- 2009. 1 東京オペラシティにおいて、東京フィルハーモニー交響楽団と共同で、高品質ライブ音場再現方式のバーチャル体験を行う実験を実施

2009 年度

- 2009. 4 インテグラル立体テレビの研究が文部科学大臣表彰を受賞
- 2009. 4 NAB 2009(ラスベガス)において、スーパーハイビジョン、インテグラル立体テレビなどを展示
- 2009. 4 技研所長、ハイビジョン放送の普及発展の国際的リーダーシップで NAB 名誉賞を受賞
- 2009. 4 ベルーが ISDB-T をベースとする地上デジタル放送方式を採用
- 2009. 5 スーパーハイビジョンフル解像度プロジェクターを開発
- 2009. 5 デジタル混信の受信対策に利用できる、地上デジタル放送受信用干渉除去装置を開発
- 2009. 5 技研公開で衛星によるスーパーハイビジョン多チャンネル・生中継伝送実験に成功
- 2009. 6 日本工業大学超高速電圧研究センターと(財)電力中央研究所の協力で、技研の開発した超高速カメラにより落雷の瞬間の撮影に成功
- 2009. 8 ブラジルで技研の最新技術を紹介(ブラジルの放送局 TV Globo およびテレビジョン学会 SET からの依頼に対応)
- 2009. 8 アルゼンチンが ISDB-T をベースとする地上デジタル放送方式を採用
- 2009. 9 IBC 2009(アムステルダム)で、「Java データ放送」と英 BBC と共同開発している「放送・IP 同期サービス」を展示
- 2009. 9 チリが ISDB-T をベースとする地上デジタル放送方式を採用
- 2009.10 ベネズエラが ISDB-T をベースとする地上デジタル放送方式を採用
- 2009.11 ネットワークの混雑状況に適応し、インターネットでも安定したハイビジョン伝送を可能にする「ハイビジョン IP 伝送装置」を開発
- 2009.11 パテントソリューションフェア 2009 で技研の特許を紹介
- 2009.12 PBI(世界公共放送会議；京都)参加者が技研を訪問。スーパーハイビジョン、インテグラル立体テレビ、地上デジタル放送技術などを視察
- 2009.12 第 60 回紅白歌合戦において、ミリ波モバイルカメラを使用
- 2009.12 紅白会場に隣接する「ふれあいホール」で、スーパーハイビジョンによる紅白歌合戦のパブリックビューイングを実施
- 2010. 1 MPEG 会合(京都)参加者が技研を訪問。スーパーハイビジョン、インテグラル立体テレビ、22.2 マルチチャンネル音響制作技術などを見学
- 2010. 2 テクニカルショウヨコハマ 2010 および実効型パテントソリューション YOKOHAMA 2010 で技研の特許・技術を紹介
- 2010. 2 地域イベント「新三銃士 スパニッシュ・コネクションライブ」開催
- 2010. 3 エクアドルが ISDB-T をベースとする地上デジタル放送方式を採用